



## ふるさとを愛するスペシャルプロジェクト始動！

本校校区の誇りである鼻ぐり井手。その鼻ぐり井手のことを広く人々に知ってもらうために絵本が制作されるプロジェクトが動いています。保存会の松永会長様より、「絵本の挿絵を南小の子どもたちに任せたい」と依頼がありました。

それを受け、子どもたちの有志が挿絵づくりに励んでいます。保護者である松野和宏様にスペシャルティーチャーとしてご指導いただき、松野様に描いていただいた絵をなぞる形で進めています。みんな一生懸命に取り組み、完成が楽しみです。



和  
氣  
香  
風

## 「三矢の訓（みつやのおしえ）」から考える教育の姿

「三矢の訓（みつやのおしえ：三本の矢の教え）」は、みなさんご存知かと思います。戦国武将である毛利元就が、3人の息子たちに結束の大切さを説いた逸話です。

毛利元就は、3人の息子（隆元、元春、隆景）に一本ずつ矢を与え、それぞれに折らせてみました。その後、三本の矢を束ねて折らせようとしましたが、折ることができませんでした。このことから、元就は

「一本の矢は簡単に折れるが、三本の矢を束ねると折れにくい。」



兄弟も同じように力を合わせれば、誰にも負けない」と諭したと伝えられています。

この逸話は、個の力は弱くとも、集団で力を合わせれば大きな力になるという教訓を表しています。協力、結束の重要性を強調しています。

これは実は江戸時代に作られた話なのですが、元就が毛利家存続のために3人の息子に与えた書状（教訓状）がもとになっているそうです。

3人の息子たちが生まれた時代は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が生まれており、まさに激動の時代を生き抜くための教えであったことがうかがえます。

さて、この教えを、現代の教育の姿に置き換えてみます。3本の矢は何を指すでしょうか。

3本の矢は、学校、家庭、地域に置き換えることができます。

学校教育、家庭教育、そして地域による見守りの教育です。

子育ての基本は家庭教育です。これは昔も今も変わりません。子育ての第一義的責任は、家庭にあるのです。深い愛情を注ぎ、時には道を誤らないように躾をし、人としての在るべき姿を身に着けていく場が家庭です。

その家庭は、地域の中にあります。「子どもは地域の宝」として、「子どもは、みんなで見ていく（育てていく）」という意識が働いていたのが、日本に伝わる共同社会の文化です。

そして、学校教育は、教科教育や道徳教育等により、より計画的かつ具体的に教育を行い、日本の子どもたちの人格の完成を目的とする場です。

左図を見てください。家庭と地域と学校のそれぞれの円が重なっているところが重要です。これを、「縁（繋がり）」と呼んでみます。世界中の多くの結びつきの中で、この菊陽南小を通して、保護者と地域の方々と学校職員の関わりが生まれています。これはまさに、「ご縁」だと思います。この重なりがしっかりとしていれば（繋がりが強ければ）、その中で、子どもたちをしっかりと見守り、育っていくことができるのです。

